

真田秀吉年表

年月日	年齢(数え)	記 事
明治6年5月5日		広島県御調郡三原(現在の三原)市に生る。父嘉兵衛(天保4、9、一生)母みとの次男兄弟8人(男4、女4)。
明治13年9月	8才	三原東小学校入学。
明治19年9月	14才	三原小学校中退、京都顕道学校に入り寄宿舎生活(仏教主義の学校)。
明治21年9月	16才	京都同志社普通科1年に入学、下宿生活。
明治22年9月	17才	京都第3高等学校(現在の京都大学)予科補充に入学予科3年、本科2年なり)。
明治27年9月	22才	東京第1高等中学校に転学、寄宿舎生活。
明治28年9月	23才	東京帝国大学工科土木科に入る。
明治31年7月	26才	大学卒業工学士となる。
明治31年8月	26才	内務省第5区(大阪)土木監督署技手拝命。
明治32年2月	27才	淀川改修第1工区大道工場主任。
明治33年4月	28才	土木監督署技師、西島工場主任伝法町に借家す。
明治35年1月	30才	京都帝国大学教授吉田彦六郎長女ツル(18才)を娶る(土木所長沖野氏夫妻の媒酌)。
明治36年1月29日	31才	長女幸生る。
明治38年	33才	上福島に土地を借り新築して移り別に借家を作る。
明治38年4月1日		官制改正、内務省大阪土木出張所となり内務技師、淀川第2工区主任となり家を京都府山崎に移す。
明治38年10月22日		母みと死亡(64才)。
明治39年8月29日	34才	父嘉兵衛死亡(74才)。
明治40年5月	35才	兼任淀川下流淀川工場主任。
明治41年9月12日	36才	長男弘生る。
明治43年3月19日	38才	三女フジ子生る。
明治43年4月1日		淀川工区主任、兼第2工区主任。家を大阪市川崎町に移す。
明治44年4月1日	39才	東京土木出張所へ転勤、家を東京市麹町区三番町へ移す。
明治45年4月1日	40才	利根川第3期改修田中工区主任単身田中村に下宿、家を大森於伊勢原(現在の山王二丁目)に借家す。
大正2年10月	41才	土地330坪求め、69坪の家を新築し移る。
大正3年	42才	兄の戸籍より分家する。
大正5年		欧米各国へ出張、8月1日第1次世界大戦起り独に宣戦、米1ヶ月滞在独には入らず大正4年2月11日に帰朝。
大正6年12月1日	44才	利根川栗橋工区主任兼田中工区主任。
大正7年5月	46才	利根川第3期改修主任件栗橋、明戸機械工場主任。
大正9年4月	48才	工学博士となる(土工論及河川改修要論)。
大正10年12月16日	49才	妻ツル死亡(37才)数年間茅ヶ崎にて療養す。鶴見総持寺に墓地を求め葬る。
大正10年7月		勅任官待遇。
大正10年10月		東京土木出張所工務部長兼庶務部長。
大正12年3月12日	51才	次女和子死亡(19才)腹膜炎。総持寺に葬る。
大正12年9月1日		関東大震災、焼失家屋40万個。大阪土木出張所長、高等官2等。
大正13年3月25日	52才	大阪土木出張所長、高等官2等。辻ぢやうを娶る(45才)。
大正13年11月30日		長女幸、楠瀬常猪(商工省勤務)に嫁す。
大正14年1月20日	53才	この秋、大阪市住吉区文の里に新築して移る。
大正15年	54才	楠瀬幸、長女澄子を生む。
昭和3年9月3日	56才	東京土木出張所長に転任、小石川区原町31に借家し、大森の家は貸与中。
昭和4年3月3日	57才	先妻ツルの父吉田彦六郎死亡(70才)
昭和4年	59才	楠瀬幸次女雅子を生む。
昭和6年1月12日		三女フジ子大内義郎(米国理学士、上海自然科学研究所員)に嫁す。
昭和6年4月20日		高等官一等
昭和6年8月12日		妻ぢやうの母辻操子死亡(83才)
昭和7年	60才	大内フジ子長女栄子を生む。
昭和8年3月	61才	長男弘九大卒業、商工省に入り大阪鉱山監督局勤務。
昭和8年9月18日		土木学会会長就任。
昭和9年11月2日		勲二等瑞宝賞。
昭和9年	62才	大内フジ子次女順子を生む。
昭和9年5月11日	62才	内務省退官。在官36年。
昭和9年5月29日	63才	正三位。
昭和10年	64才	楠瀬幸長男彰彦を生む。
昭和10年10月30日		大森旧邸内に新築(85坪)し移り、旧家屋は借す。
昭和13年2月14日	66才	長男弘(31才)、田辺梅香(九大教授田辺唯司の長女21才)を娶る。
昭和14年	67才	長男弘の長女房枝生れる。
昭和17年10月	70才	弘の家を大井原町に買ふ。
昭和17年3月30日		長男弘の次女友子生れる。
昭和20年4月25日	73才	東京大空襲のため妻の郷里岡山県金光町辻方へ妻と二人疎開、大森家は借す。
昭和21年5月19日	74才	原籍地、三原市東町へ疎開。
昭和22年4月15日	75才	大森の旧き家は財産税支弁の為売却。
昭和27年3月	80才	弘退官(在官19年)。
昭和30年12月20日	83才	疎開地三原より大森宅に帰る(疎開期間合計10年8ヶ月)
昭和32年5月26日	85才	妻ぢやう死亡(78才)大骨折心臓衰弱のため。鶴見総持寺に葬る。
昭和35年1月16日	88才	近親一同を招き米寿の祝宴を催す。
昭和35年1月20日		午前0時20分心臓麻痺にて死亡。
昭和35年1月20日		内閣総理大臣より銀杯下賜さる。
昭和35年4月2日		鶴見総持寺に葬る。